文書が映す安曇野の文化⑥

災害の歴史を調べている堀金中学校生徒

昨年9月、堀金中学校生徒の皆さんが地域の災害の歴史を調査したいと来館しました。堀金村は、広報誌として「村報ほりがね」「広報ほりがね」「公民館報」の３種類があります。生徒たちは、その広報誌から昭和時代に起きた災害について知ることができました。

文書館には、旧5町村時代に発行された広報誌や利用した写真類が保管されています。

・豊科町 79 点（昭和 21 年～）　・穂高町 303 点（昭和3年～）　・三郷村 225 点（昭和 12 年～）
・堀金村 117 点（昭和 25 年～）　・明科町 299 点（昭和 26 年～）

公民館は戦後、社会教育の充実を図る目的で発足した組織（昭和 21 年7月文部省次官通達により公民館設置要綱が示される）です。『南安曇郡誌第三巻下』によると、南安曇郡は昭和 22 年9月には全県下に先駆け、100％の設置（県下の状況は 35％）を果たしていることがわかります。広報活動も盛んであり、ほぼ毎月「館報」発行しています。戦後の生活ぶりを知る資料となっています。

令和３年度企画展等の予定

●**古文書初級講座　全5回（5月～7月）　申込終了**
テキスト（500 円）を販売しています。

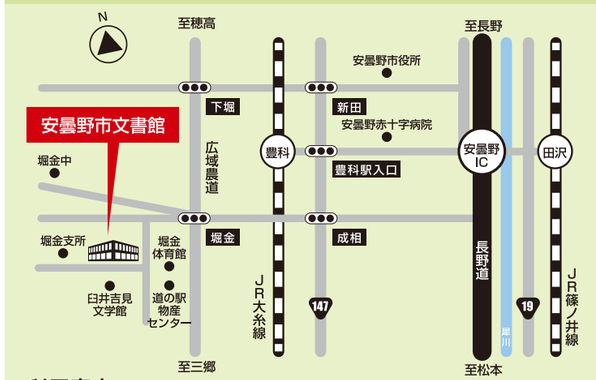
●**後期企画展「こんなに分かった江戸時代」**
関連企画：地域研究会交流会
安曇野市域で活動している地域史研究会の方々の交流企画
【日時】　令和3年 10 月 10 日（日）　13:30 ～ 15:00
【会場】　安曇野市堀金公民館　講堂

関連講座１
「古文書から読み解く江戸時代の建築」（仮）
【日時】　令和3年 10 月 24 日（日）13:30 ～ 15:00
【会場】　安曇野市堀金公民館　講堂
【講師】　梅干野 成央 氏（信州大学工学部建築学科准教授）

関連講座２
「江戸時代の絵図を読み解く」（仮）
【日時】　令和3年 11 月7日（日）　13:30 ～ 15:00
【会場】　安曇野市堀金公民館　講堂
【講師】　青木 弥保（安曇野市文書館、安曇野市教育委員会文化課主査）

●**第3回バックヤードツアー**
【日時】　令和4年2月 27 日（日）　13:30 ～ 15:00
【会場】　安曇野市文書館講義室
【講師】　青木 弥保（安曇野市文書館、安曇野市教育委員会文化課主査）

■安曇野市文書館 案内図■



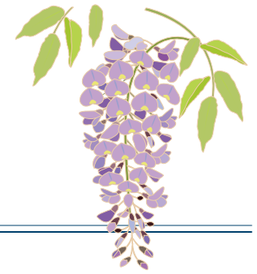
利用案内
【開館時間】　午前9時～午後5時
【休 館 日】　土曜日、祝日、12月29日から1月3日
【駐 車 場】　約50台（堀金支所・堀金公民館・堀金図書館共用）

ACCESS
長野自動車道安曇野ICから約5km、自動車で約10分
JR大糸線豊科駅から約3km、自動車で約6分

編集後記　1996（平成８）年、藤田紘一郎氏は『空飛ぶ寄生虫』（講談社）を著しました。感染症対策に対して無防備な日本に警鐘を鳴らしています。当時、とても興味深く読んだことを思い出します。と同時に、危機意識を持つことがなかった自分を情けなく思います。臼井吉見は史実は対話をすることによって歴史となると語っています。今の新型コロナウイルス感染症について、安曇野市ではどうであったのかを逐次記録していくことの大切さを実感しています。

安曇野市文書館
安曇野市文書館だより第６号　編集・発行　安曇野市文書館　発行日：令和３年５月 14 日発行
〒399-8211 長野県安曇野市烏川 2753 番地１　TEL.0263-71-5123　FAX.0263-71-5127
E-MAIL bunshokan@city.azumino.nagano.jp　URL www.city.azumino.nagano.jp/site/bunsho/

安曇野市 文書館だより



第６号

前期企画展

「多元主義社会を生きる～自由主義擁護の旗手清澤洌の思想を通して～」

清澤 洌 資料40

戦前・戦中に活躍したジャーナリスト清澤 洌は、現在の安曇野市穂高北穂高青木花見に生まれました。研成義塾で学んだのち、青年期にアメリカで見聞を広めてきた清澤は、帰国後、新聞記者や外交評論家として活動します。培ってきた自由主義と平和主義を掲げて軍国主義を批判し、また冷静な目で世界情勢を分析した多数の評論や書籍を執筆します。1941（昭和16）年、太平洋戦争が始まると、翌年から『戦争日記（暗黒日記）』として戦況や自らの想いを書き綴ります。

グローバリズムとナショナリズムがしのぎを削りあっている現代における私たちのあり方を、日本を愛し、他国の立場を尊重しようとして生き抜いた清澤洌の生き方を通して考えます。

期間：令和3年5月9日（日）～8月 31 日（火）
会場：安曇野市文書館閲覧コーナー、堀金支所 2 階交流ラウンジ

参加費 **無料**
事前申込 **必要**

記念シンポジウム
【日　　時】　令和3年6月 13 日（日）　13:30 ～ 16:00
【会　　場】　堀金総合体育館サブアリーナ ＊リモート開催の場合　本庁4階大会議室
【基調講演】　講　師　井上 亮 氏（日本経済新聞社編集局編集委員）
　　演　題　「右でも左でもない『自由』の人」
【シンポジウム】
テーマ　「戦争という非常時に生きた清澤 洌の覚悟～グローバリズムとナショナリズムの狭間に生きる私たちへの提言～」
【シンポジスト】
井上 亮 氏、江川 紹子 氏（ジャーナリスト）、渡辺 知弘 氏（信毎新聞社編集局報道担当記者）、信州大学政治参加推進コミュニティー「VOTERS」

関連講座１
「『暗黒日記』を読み解く」
【日　時】　令和3年5月 23 日（日）　13:30 ～ 15:00
【講　師】　上條 宏之 氏
（信州大学名誉教授、長野県短期大学名誉教授）

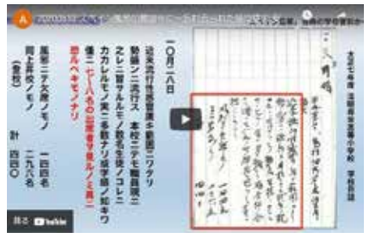
関連講座２
「近代を生きたジャーナリスト会田血涙」
【日　時】　令和3年7月 18 日（日）　13:30 ～ 15:00
【講　師】　平沢 重人（安曇野市文書館館長）

＊両講座共に会場：安曇野市堀金公民館講堂

地域に根ざした文書館をめざす

2018（平成30）年10月1日に開館した安曇野市文書館も２年半が過ぎました。昨年度の本館の実績を、設置目的のひとつである「市の教育、学術、文化及び生活の発展に寄与するために」の視点で振り返ります。

（1）　地域資料の相談件数 24 件（令和元年度 20 件）
　・安曇野市教育会　・市内区、公民館　・個人
（2）　資料閲覧者数 332 人（令和元年度 323 人）
（3）　相談者数（来館、電話、メール）251 人（令和元年度 153 人）
（4）　文書館企画や講座の Web 配信、地域ケーブルテレビとの連携５点
　・スペイン風邪の教訓今に　・講演会「公文書の今、そしてこれから」
　・講座「感染症との闘い」「小倉官林開墾 100 年」「今昔、協働のまちづくり」
（5）　企画展、講演会、講座の満足度
　・満足 71%、ほぼ満足 23%
　・大変詳しく調べてありわかりやすかった。興味深い内容で聞きごたえがありました。
　・原資料のコピーがあってよかった。古文書の勉強になった。
　・公文書管理はそれだけの問題にとどまらない。私たちの意識の変革も必要とのことが印象に残りました。この点をもう少し深く考えていきたい。

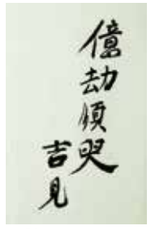

安曇野市文書館ＨＰ

新型コロナウイルス感染症対応のための閉館期間（4月 11 日～5月 15 日）や企画等の縮小があったにもかかわらず、閲覧やレファレンスの実績が伸びています。文書館の役割が地域に浸透してきていることの表れと考えます。また他市町村からの視察（２件）や講演依頼（他県２件）がありました。昨年度創設の「認証アーキビスト」（全国 190 人）に本館で1名が認証されました。今後も文書館職員の職業能力を高め、文書館機能の向上に向けて努めてまいります。

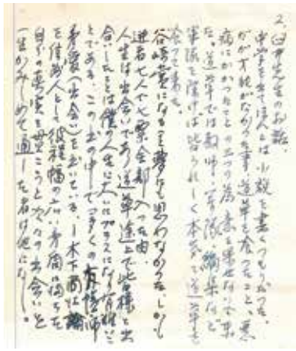
臼井吉見文学館開館30周年

前号で臼井吉見に関わる資料の提供を呼びかけました。 12 件の相談をいただきました。この「億劫須臾」は『安曇野』第５部の扉に印刷されているものです。鶴林堂書店限定本です。人との出会いを大切にしていた臼井の人柄が伝わる言葉です。他にも玄関や居間に飾られていた色紙や『安曇野』完成祝賀会や堀金小学校同級会の写真など、どれも興味深い貴重な資料です。

今年7月 12 日（月）の開館 30 年に向けて資料調査を進めています。その中で親友唐木順三に寄せて書かれた「二つのこと」（『臼井吉見集第２巻』筑摩書房）生原稿 20 枚と伊那中在職中、1940（昭和 15）年作の「即詠七首」生原稿が明らかになりました。また、臼井が昭和 16 年から 18 年までの松本付属小学校主事（校長）として在職していた当時の仲間たちで作る「臼井吉見先生を囲む松本付属会」があります。その会の雑記帳には毎年開かれた会の中で臼井が話された内容がていねいに記録されています。『安曇野』『獅子座』執筆の背景など、実に興味深いものがあります。今後、調査結果をまとめていきます。



億劫須臾（おくごうしゅゆ）
吉見
田中 宏隆 氏資料

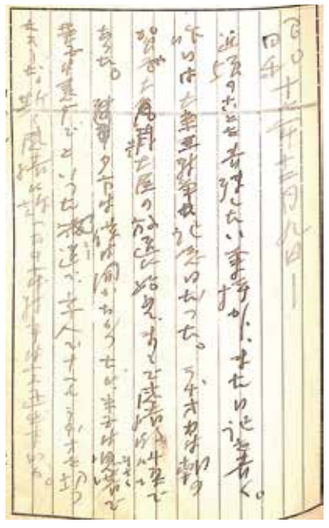

ほたるぶくろの会資料

清澤 洌の思想

大国の仲間入りを果たした日本が生き抜くためには、何が必要なのか。ジャーナリストとして守るべきものは何なのか。この企画展を通して多くの方に「自由主義擁護の旗手 清澤 洌」の思想にふれてほしいと思います。

清澤の住宅
東京鵜の木（清澤 洌資料41）

元豊科町長、笠原 貞行 氏に「俺の家が焼けてもこの本だけは残るように半地下にして焼けないようにできている」と語った丘の途中をくりぬいて書庫をつくった清澤の住宅


近頃のことを書き残したい気持ちからまた日記を書く。昨日は大東亜戦争記念日だった。ラヂオは朝の賀屋大蔵大臣の放送に始めて、まるで感情的叫喚であった。夕方は僕は聞かなかったが、米国は鬼畜で英国は悪魔でといった放送で家人でさへもラヂオを切ったそうだ。斯く感情に訴えなければ戦争は完遂できぬか。

「戦争日記」1942（昭和17）年12月９日
（清澤 洌 資料４）

1992（平成４）年に「清澤 洌 顕彰会」が穂高町有志により結成されました。その後、名称を変えながら清澤の思想を学ぶ勉強会が毎月開催されています。2000（平成 12）年５月 21 日には、清澤の二女であり「清澤洌資料」114 点を寄贈された池田まり子氏をはじめ多くの親族の方や穂高町関係者の皆さん、顕彰会の皆さんが参列し、胸像除幕式が開催されました。

『激動期に生く』昭和九年千倉書房
（清澤 洌 資料一五）

序「現代の社会では『否』という文字は、殆ど行方不明になっている。殊に世が非常時相に入ってからは、社会の中心勢力から出る音頭に調子を合わさないものは、国家と社会を毒するもののように（以下略）」

『清澤 洌 胸像建立記念誌』
2001（平成13）年